



Dear Women of Shoin ~凛として、輝く女性へ

1949年、大阪樟蔭女子大学は、新制大学としての歩みを始めました。

しかしながら、その女子高等教育機関としての歩みは、

戦前の樟蔭女子専門学校に始まります。

樟蔭女専が初めて入学生を迎えた1926年、

年号は大正から昭和へと変わりました。

以来、昭和・平成と、いつの時代においても、

本学が志したのは、時代の変化に対応できる

女性の育成。2019年、次の時代が始まる

この時に、新たな一歩を踏み出します。

“**美 Beautiful!**”



「シンボルマーク」



美Beautiful 2030 のシンボルマークは、

樟蔭学園のコミュニケーションマークを使用しています。

シンボルマークのカラーは、深緑「伝統」とサーモンピンク「革新」が

連続するグラデーションで表現することで、伝統とともに2030年へ

向かう未来を連想させています。

美を通して社会に貢献する

美 Beautiful

OSAKA SHOIN WOMEN'S UNIVERSITY

大阪樟蔭女子大学

〒577-8550 大阪府東大阪市菱屋西4-2-26
<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/beautiful>

[学芸学部] 国文学科 国際英語学科 心理学科 ライフプランニング学科 化粧ファッショングループ

[児童教育学部] 児童教育学科

[健康栄養学部] 健康栄養学科

大阪樟蔭女子大学



樟蔭学園創立者森平藏は、当時の女子高等教育の状況を憂い、1917年、私財を投じ、「樟蔭高等女学校」を設立しました。創立者の思いである建学の精神の趣旨は、「『高い知性』と『豊かな情操』を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成をめざす」であり、今日でも色褪せることなく脈々と引き継がれています。

人材育成と知的創造活動の場である大学は、今後予測不可能と言われている時代において、「自ら考え主体的に判断し行動する力」や「変化に対応するしなやかな力」を有する人材を社会へ送り出す責務があると考えています。そこで、建学の精神を大事にしつつ現代社会の課題に対応したグランドデザインを策定いたしました。

将来に向けて本学がめざすものは、美の「知」、美の「人」を追究し、知性美・情操美・品性美の三つの「美」を兼ね備えた社会の要となる人材の育成を通して社会に貢献することです。まさしく「美(知性・情操・品性)を通して社会に貢献する」大学になります。

ここでいう「美」とは、単なる外見上のものではなく、むしろ内面から醸し出される美しさであり、教養があり立ち居振る舞いに品がある洗練された「美」を意図しています。本学の伝統や現在の学びの実態、そして将来を見据えて「美 Beautiful 2030」をスローガンとしました。

「美(知性・情操・品性)を通して社会に貢献する」大阪樟蔭女子大学へ。2030年に向けて着実に歩んでいきます!

大阪樟蔭女子大学 学長
北尾 悟

美を通して社会に貢献する



OSAKA SHOIN WOMEN'S UNIVERSITY

大阪樟蔭女子大学は

- 美 Beautifulをキーワードとして教育・研究を展開します
- 美 Beautifulを通して成果を社会に還元します

本学に学ぶ女性には

- 前向きに物事をとらえ、行動するひと
- 相手の立場を理解し、自分の考えをもっているひと
- 変動する未来をしなやかに生きるひと

そのような自立、自律した女性になってもらいたい、それが願いです。



M E S S A G E

美（知性・情操・品性）を通して社会に貢献する

“美 Beautiful 2030” の実現に向けて

1

知性の「美」を中心に、 情操の「美」、品性の「美」を高める学び

価値観が多様化し予測不可能な時代が到来するなか、自ら考え判断し行動する女性の育成に対応した課題解決型教育を展開するため、学生が主体的に学んでいく教育環境を整備します。これらの根底には、知識技能の修得のみならず、他者と共に働く社会における情操や品性を磨くことを重視した学びがあります。

LEARNING

2

充実したキャンパスライフを支える サポート体制

学生の能力を最大限伸ばすため、修学面、生活面、キャリア面でのサポートをさらに充実させます。修学環境の整備や奨学金制度の充実、そして就職活動に対する物心両面からのサポートなど、学生ひとりひとりに対応したキャンパス環境をつくりあげます。

STUDENT SUPPORT

3

良きパートナーシップ精神をもった 地域貢献、社会貢献の推進

他者との円滑なるコミュニケーション力を養うため、良き情操と品性を兼ね備えた感性とともに地域貢献活動を積極的に行う学生をサポートします。また、地域と社会が抱える諸問題に対して、大学が持つリソースを活用し貢献しています。

REGIONAL CONTRIBUTION

3つの美（知性美・情操美・品性美）に基づく教育や研究を展開し、他の大学には真似のできない学びで社会対応力を有する美しい女性の育成を実現します。



アカデミックな観点から「美」に アプローチする研究の推進

身体などの外見だけでなく内面も含めたトータルに「美」を研究する機関を、2020年度設立を目標に計画中です。この研究機関を中心に外部機関との共同研究を推し進め、その成果を社会に還元していきます。

RESEARCH INSTITUTE

4

多様性を尊重し合う学生の受け入れ

多様な背景を持つ学生同士が刺激し合いながら学びを展開しあいを高め合う環境となるキャンパスを提供するため、高大接続の在り方を提案していきます。また、努力を惜しまず前向きに考え方を行動する学生をこれまで以上に受け入れるため、入学者選抜制度の改革に取り組みます。

RESPECT FOR DIVERSITY

5

樟蔭から世界につながる ネットワーク構築

在学中に留学を経験する学生を増やすとともに、外国人留学生の受け入れも促進し、多様性あふれるキャンパスの実現をめざします。国内外を問わずあらゆる場面で人と人とのネットワークが今後ますます重要となってくるため、ワールドワイドなネットワーク構築を通して学生が成長できるよう、サポートいたします。

NETWORK CONSTRUCTION

6

FUTURE VISION



様々な場で活躍する学生、卒業生たち。

学生、卒業生が様々な場面において各々のキーワードを通して、地域貢献、社会貢献しています。

三人三様の知性美・情操美・品性美を樟蔭の学びの場で身につけ活躍しています。

大阪樟蔭女子大学は、将来に向かって夢を実現しようとする学生たちをサポートし、世の中に送り出していくます。

学生たち卒業生たちとともに、未来を切り拓いていくため、2030年に向けてグランドデザインを推進してまいります。

Beauty and Fashion



岡坂 真奈さん

学芸学部 被服学科 2014年卒業
人間科学研究科 化粧ファッション学専攻 2016年修了
学芸学部 化粧ファッション学科 客員研究員

化粧を通して“美”と“知”で社会に貢献

家業を継ぎ、美容師になることだけ決めて学芸学部被服学科化粧学専攻美容コースに入学しました。

美容師は繰り返されるシャンプー施術で皮膚のバリア機能が破壊され、ひどい手荒れで職を断念せざるを得ない人も多くいます。教授から皮膚のバリア機能を壊さず、美しい肌を保てるシャンプーの開発を提案され、それが私の大きな目標になり大学院化粧ファッショニ学専攻に進学しました。日々の実験、教授とのコミュニケーション、専門書や文献調査などで皮膚や化学の勉強、学会発表、海外の科学雑誌に論文を投稿しました。その研究が海外の化粧品会社に注目され社員として採用され、同時に大阪樟蔭女子大学の客員研究員として社会人の一步を踏み出しました。

化粧は、美しい皮膚や容貌をつくるだけではなくその心理・生理作用（化粧の力）で高齢社会や福祉医療の場で社会に貢献できると考えられています。今の私の夢は、化粧の力で社会に少しでも貢献することです。私の夢は膨らんでいます。



CONTRIBUTION

Life Planning



川中 恵莉さん

学芸学部 ライフプランニング学科 3年生

地域を通して“食”と“人”で社会に貢献

「美しい女性の生き方って何だろう」「自立した女性は何ができるの」というような思いを抱き、大阪樟蔭女子大学に入学しました。学芸学部 ライフプランニング学科で“食”的な社会的背景を中心に学んでいます。「食」を通じて地域の“人”と喜びを共有」を目的に、「くすのき地域協創センター」と連携し、イベントの企画や準備に追われています。これは私自身のライフプランニングを見つめる上で、企画力や情報訴求力の向上や、消費者行動や購買心理を学び社会貢献に繋がる、有意義な活動です。

また、「子供レストラン」のボランティア活動も始めています。“食”を通じて様々な“人”に出会い“地域”に還元する活動は、私自身の生き方を支える原動力だと感じています。

私の夢は、「自立したマイスタンダードな女性になる」ことです。大阪樟蔭女子大学はそのような私を“近くで見守ってくれる先生がいる”大学です。その支援を背中に感じ、夢の実現に向かっています。

Health and Nutrition



吉西 由佳さん

学芸学部 健康栄養学科 2016年卒業

食を通して“知”と“笑”で社会に貢献

将来、食に携わる仕事がしたかったので健康栄養学科食物栄養専攻に入学しました。健康栄養学科での学びは、現場に基づいた生きた実習が多く、地域でのレシピコンテストやコンビニのお弁当コンテスト等にも積極的に参加し、卒業時、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリストの資格を取得しました。

食品企業とのコラボ企画で、コンビニ向け商品が販売されました。別の食品企業との商品開発企画では、リーダーとしてメンバーと意見調整しながら商品化をめざし、コスト面や原材料調達、製造プロセス面、実社会では様々な制約があることを知りました。

現在、菓子製造を中心とした事業を展開している食品企業にて商品開発、研究、マーケティングを担当しています。女性消費者の視点も必要とされ、責任とやりがいを感じています。夢はヒット商品を作り、食べ物を通して、人を笑顔にしたいと思っています。大阪樟蔭女子大学は、なんでもチャレンジさせてくれる環境があり、どこかの大学にも負けていないと思います。

グランドデザイン2030「美 Beautiful」

北尾学長×桜垣客員教授



北尾学長 桜蔭学園は、大正6年（1917年）に設立され、それ以来100年を超える長い歴史を有する女子教育機関です。どんな時代においても社会で活躍できるよう、常に一步先を見つめた女性の育成に努めてきました。

近年は学士課程基幹教育に力を入れておらず、早い段階から将来をイメージできるよう、入学時からキャリア設計のカリキュラムを導入しています。いろいろな選択肢がある現代で、今回ご縁あって本学の客員教授に就任いただき運びとなり、学生にとっては非常に頼もしいロールモデルになつていただけると期待しています。桜垣先生は、長年にわたりてホテル業界でお仕事されて、ホテル開業の準備室長、総支配人、人事部長と歩まれていらっしゃいますが、その間いろいろな苦労もあったと思います。振り返ってみていかがでしょうか？

桜垣先生 私としては、キャリアアップをそこまで強く意識してきたつもりは無くて、「与えられた仕事をきちんとこなす」という姿勢で取り組んでいるうちに、気づけば管理職になり、ホテル近鉄京都駅の総支配人になり…そして今に至るということが正直なところです。新しいホテルを作るなんて経験したことがない、まったくゼロからのスタートで非常に苦労しましたが、多くの方々に助けていただきなんとか開業に至りました。経験の無い仕事には当然不安を感じますが、私の場合はそれよりも、「その仕事面白そう」とか「せっかく任せられたのだから頑張ろう」という気持ちのほうが上回ることが多かったなと、振り返ってみて思いますね。

北尾学長 またまた女性の社会進出、社会でやでからの問題点も多々あると思いますが、そういう姿勢の女性が、会社でも、会社以外の様々な活動でも増えることを願っています。聞くところによりますと、近鉄・都ホテルズでは「女性が働き続けたくなる職場を作る委員会」があり、桜垣先生は委員長をされていたそうですね。経緯や中身を伝えられる範囲で結構ですので、お聞かせください。

桜垣先生 「これからは多様な人材をいかに活躍させるか」という時代だ。女性の活躍を一層推進しなければならない。」という弊社社長の指示のもと、私のほかに各ホテルから委員

を集め発足しました。それこそ、結婚前の若い社員から出産・育児の経験を持つ社員まで、様々な社員を集めました。

委員会の議論の方針は、休みを増やすことではなく働きやすくすることに主眼を置こう、と決めました。つまり、「育児休業を3歳まで取得できるようにする」というような提案ではなく、「1年間の育児休業後にいかに戻りやすく、働きやすくなるか」を考えようということです。委員会の活動に基づいて制度も改正しました。全社を学び取り組んでいることですから、一歩ずつでも着実に進めていかねばならないと思います。

北尾学長 いわゆる働き方改革に繋がるお話だと思いますが、社内に浸透させるということは地道でなかなか時間がかかるものです。

桜垣先生 少しずつですが理解を得られ、育児休業を取得後に復帰する社員も増えています。委員会としては、まずは「女性」に焦点を当てましたが、女性活躍の推進はダイバーシティ推進の第一歩だと思っています。現在は「ダイバーシティ部会」を発足して、取り組みの範囲をさらに広げています。

北尾学長 桜垣先生のリーダーシップのもと、この活動が前へ進んでいるのだなと、非常に感じます。

今、「ダイバーシティ」という言葉が出てきましたけど、多様性のある人材が社会の様々な場面でかかわることが、これからの日本社会の重要な課題だと思っています。

本学は、今回あらためてグランドデザイン《美 Beautiful 2030》を提示しましたけど、桜垣先生のキャリアの歩みは共鳴することばかりで、学生が知性・情操・品性美を身につけ、多様性のある社会に貢献できるよう、学生への授業などを通して、今後ともご協力いただき、お付き合い願いたいと思います。

桜垣 真弓 客員教授 Profile

同志社大学 文学部卒

1983年 都ホテル入社

2009年 京都駅4番線ホテル(仮称)開業準備室 室長

2011年 ホテル近鉄京都駅 総支配人

2015年 ホテル近鉄ユニアーバーサル・シティ 総支配人

2016年 株式会社近鉄・都ホテルズ 執行役員 人事部長

2017年 本学 客員教授 就任

2018年 株式会社近鉄・都ホテルズ 取締役 人材開発部長

学長SPECIAL対談 ~ホームページからの抜粋~

北尾学長×白井客員教授

北尾学長 大阪桜蔭女子大学は、母体である桜蔭学園が創立100周年を過ぎ、これを機に建学の精神を見つめ直し、変化の激しい時代に対応すべく大学の進むべき道、将来像としてグランドデザインを提示しました。その中で、当然大学というのは人材を養成すべきところですので、養成すべき人材像として「自ら考え主体的に判断し行動する力」や「変化に対応するしなやかな力」を盛り込みました。大学のグランドデザイン特別公開講演会において、白井先生に「自分らしく、美しく生きる」というタイトルで講演いただきましたが、その方向性にひたりな内容でした。

白井先生 最初は「うれしい、楽しい、ありがたい」という気持ちだったのですが、だんだんと「美 Beautiful」というすごく大きなテーマに悩んでしまいました。なかなか表しにくいし、伝えにくいところなのです。「美 Beautiful」というのは、どうしても外見的なところにとらわれがちですが、内面の豊かさとか蓄えの部分だとと思うんです。そこで、私らしくそのままの歩みを皆さまにお伝えすることによって何か感じていただければいいのかなと思い至ったんです。

私は、中学・高校と6年間女子校でした。様々なものを吸収したり、感じたりする時代に女子校（母校）で育ったということは、私の人生に大きなインパクトを与えていたと感じます。

女子校なので全員が女子というのは当たり前ですが、男女の役割意識みたいなものは一切なく、何でも自分たちでやっていかないといけないということが、チャレンジ精神を持つことにつながり、未知の扉を開く勇気につながったように思っています。

北尾学長 今回提示したグランドデザイン「美 Beautiful」は、内面も含めた総合的な人間力を本学の学生にしっかりと4年間の学びの中で身に付けてもらって、卒業後社会で要として光り輝いてくれるような女性を育成していくという趣旨なんです。

これから具体的な取り組みを行っていこうと考えているんですけど、白井先生の立場からどういう風にお感じになるのか、最後にちょっとお聞かせください。

白井先生 「美 Beautiful」のメッセージはとても重要だと思います。

外見だけでなく、内面の強さ、清らかさ、エネルギーみたいなものをしっかりと持つ女性たちが増えていくということは、これから社会を大きく変えていくことです。

女性だけができる事、心身ともに健康でおなかの中で次の世代をはぐくんで、自分の生き様を子どもに見せていくということ、これはすごく大切なことで次の生をはぐくむことを見据えて、ワークライフバランスをきちんと取りながら悔



いの生き方をしていくことが求められます。

今まで60歳ぐらいまで仕事をして、あとは社会の中で人に迷惑をかけないように生きていったらいいと考える時代が長かったですけども、今は100歳まで生きていくことを念頭において、人生設計をしていかないといけない時代になってきています。だからこそ社会にどんな役割を果たしていくのかを踏まえた長い人生設計を考えいくことを、考えさせるきっかけや様々な生き方を提示して自分らしさを見つけていくやり方も重要です。特に女子大では、女性の生き方のモデル、様々なことにチャレンジしてきたストーリーを身近なものとして伝え、生き方を考えていくことができるカリキュラムをしっかりと根付かせてほしいと思います。

単に卒業・就職したら終りではなく、根を張り、葉を茂らせ、種を育む、蓄えをどうしていくか、この4年間でしっかりと深めて、卒業後も君たちを見守り、一緒に動く、活動していくよというメッセージを大学として出し続けていくことが、大学のひとつのカラーであり魅力にもなるのではないかでしょうか。そうして卒業したサポートーたちがたくさんいる中でひとりひとりが後輩のモデルになっていく循環をしていけると社会貢献につながっていくんじゃないかとすごく期待しています。

北尾学長 美(知性・情操・品性)をしっかりと4年間学びのなかで身に付けてもらう、ここで完成形じゃないですから考えるきっかけでもいい何かを学生の時に感じてもらいたい、そのうえで社会に貢献する、今回の趣旨にぴったりの話を聞かせていただいて本当に心強く思っております。非常に有意義な時間をありがとうございました。

白井 文 客員教授 Profile

全日空で客室乗務員として11年勤務後、人材育成会社起業
尼崎市議会議員(2期8年)、尼崎市長(2期8年)

現在、ゲンゼ㈱取締役、ベガサスミシン製造㈱取締役、住友精密工業㈱取締役、三洋化成工業㈱取締役

一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団業務執行理事

I N T E R V I E W

今、学生に伝えたいこと 学長SPECIAL対談

北尾学長×江川客員教授



北尾学長 2017年、母体である樟蔭学園が100周年を迎える節目の年に、大阪樟蔭女子大学は、グランドデザイン「美 Beautiful 2030」を策定しました。このたび客員教授就任を機に、本学への期待や役割について意見交換をこれからさせていただきます。

江川先生は特殊メイク業界のパイオニアとして、多くの俳優・監督・プロデューサーの方々に絶大な信頼を誇り、様々な作品を世に送り出されています。師匠であるアメリカの伝説ディック・スミス氏の教えどおり、技術を惜しみなく披露、後進の育成に力を注ぎ、本学で長年教鞭をとっていただいております。当時は被服学科（現：化粧ファッション学科）でしたが、非常に身近なロールモデルとして学生に慕われておられます。

実際に仕事をしていく上で一番気をつけてること、大事なポイントがあつたら教えていただけますか。

江川先生 1つ目はやっぱり技術です。技術・クオリティは大事です。技術を落とさず、必ずしっかりと磨く。そうすると、周りから人を紹介してもらったり、仕事がたりします。“技術を1ミリだって落とすのはいけない、ハードルは毎日上げなさい。”とスタッフみんなに言っています。2つ目に重要なのは人間関係です。口コミで仕事をいたしたりするので、人間関係はすごく大事です。最後に、自分は運が良かったなと思っているほうなので、『運』かなと思います。

どれひとつかけでもダメですね。仕事が仕事を呼ぶこともありますし、いい仕事をすれば、評価されて別の仕事に繋がるものですから大事にしています。

あと、施術の際などは、やはり1時間、ものによっては1時間半メイクを一気にやります。その間、人によっては朝早いと寝ちゃう方もいらっしゃるので、快適にリラックスして準備ができるように心がけています。あまり余分な話はしない方がいいとは思っていますけど、相手次第ですね。

相手の方がどんどん話されたら、お応えして楽しく明るい感じでメイクに入れます。中には、「台本読ませてもらっていない?」っておっしゃる方もいます。そういう時は邪魔をしません。要は、空気を読むことです。またある程度キャッチするアンテナも必要なんです。相手を知ってどういう風に対応するか瞬時に考えられる柔軟性も必要だと思います。そういう柔軟性がなくて、ただおしゃべりすればいいということではないですね。

気持ちを汲み、空気を読むことがすごく大事だなと思います。
北尾学長 今の学生に思うこと伝えたいことはありますか？

江川先生 全体的に、今の若者はちょっと消極的ななと思うことがあります。なんとなくやってなんとなく終わっているような感じの学生が多いですね。自分がたまたま海外に行ったからですけど、グローバルの観点から日本を見る、客観的に日本人を見ることができるのはすごく大事なんです。

若者の意識に『日本人』というのもないです。でも一步国外に出たら、パスポートがなければだめだし、嫌でも日本人ということを意識せざるを得なくなる。そういう環境は大事で、自分を客観視できるし、その国の人たちがどう日本を思っているか実感します。私も海外へ行ってはじめて“あ、そんな風に思っているんだ”と学ぶことが多かったので、そういうことを知る意味で体験することが大事です。

北尾学長 昨年、『トピタテ！留学JAPAN』に化粧ファッショング学科4年生が選出されました。英語が得意じゃなかったと聞いていますが、それでもいいと思っているんです。

江川先生 英語は、アメリカに行ってからでも学べますから。準備を整えていこうと思ったら、なかなか大変なことですよ。

北尾学長 本学の化粧ファッショング学科ですが、日本の大学でも非常に珍しい学科です。もちろん大学なので専門学校とは違うコンセプト・カリキュラムですが、江川先生からみてどういう風に思われているか、教えてもらいたいと思います。



江川先生 ファッションと化粧、メイクアップとかそういうのが融合して、トータルファッショング。重要なことだから、上手いことネーミングされているなと思いました。

ビューティって言っても、人間の生き方そのものという捉え方、顔をキレイにするだけではなく、その内面というのもすごく納得できますね。やっぱり生き方かなと思うので、“美しくかっこよく生きていこう！”みたいな提案をしたい。

北尾学長 “美しくかっこよく”ですね。人によって当然輝き方とか度合いは様々ですが、そういうものが醸し出されるというか、にじみ出てくる、そういう風な人になってもらいたいですね。くわしくは、本学のホームページに記載しております。

江川 悅子 客員教授 Profile

1976年出版社入社後結婚を機に渡米。1979年ハリウッドにあるJoe Blasco Make-up Center入学。同校を卒業し映画スタジオで助手となる。映画『デューン』、『砂の惑星』、『ゴーストバスターズ』、『キャプテンEO』などのプロジェクトに参加。

特殊メイクの第一人者リック・ペイカー氏に師事する。1986年日本に帰国し日活撮影所の中に特殊メイク制作会社メイクアップディメンションズ設立、2008年東宝スタジオに移動

今、なぜ「美」の感性・意識が求められるのか? ～私の“樟蔭美”がこれからの時代を生きる軸になる～

大学創立70周年記念フォーラム

2019年11月17日（日）に大学創立70周年記念フォーラムが開催されました。「建学の精神」から引き継がれてきた“樟蔭美”。このフォーラムでは、私たちが“美”をどう意識して行動してきたのか、私たちだからこそ未来に向けて何ができるのかなど、“樟蔭美”について共に考え語り合いました。

第一部：基調講演 学長 北尾 悟

AI、ビックデータやロボティクス等先端技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変化する時代が来ることに触れ、これまで樟蔭で培った教育を再確認するとともに、これまで以上に「美」の感性・価値観が必要となるとお話しがありました。そのための「私の樟蔭美」プログラムを検討する必要性に触れ、グランドデザインに掲げている「美 Beautiful 2030～美を通して社会に貢献する～」のスローガンのもと、6つのビジョンを具現化するために取り組みを進めていきたいと言及されました。

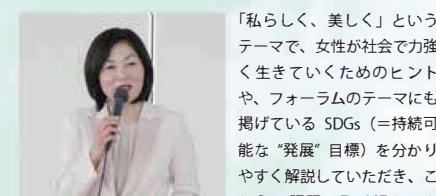


第三部：パネルセッション



白川副学長のファシリテーションにより、在学生、卒業生、北尾学長、白井客員教授でパネルセッションを行いました。在学生は、学業だけでなく、委員会活動や留学にも挑戦し、チームでの活動や異文化の中で、常に自己成長したいという前向きな気持ちで学生生活を送っていることをお話ししていただきました。また、卒業生からは、大阪樟蔭女子大学での4年間で、先生や仲間に支えながら「自分の人生の軸」を見つけることができ、現在のキャリアの選択にも繋がったとお話しされました。それぞれのステージで、自分らしく活躍している学生の姿そのものが“樟蔭美”を表していることを実感できたセッションとなりました。

第二部：特別講演 客員教授 白井 文



「私らしく、美しく」というテーマで、女性が社会で力強く生きていくためのヒントや、フォーラムのテーマにも掲げているSDGs（=持続可能な“発展”目標）を分かりやすく解説していただき、これらの課題に取り組むことで、世界の女性が置かれている厳しい現状を打開できる一歩に繋がることについてお話しいただきました。また、文学（田辺聖子さん）、教育（公文禎子さん）、スポーツ（山泉和子さん）等様々な分野に貢献してきた本学卒業生を例に挙げ、先人の功績を誇りに思うとともに、在学生も自信をもって様々なことに挑戦してほしいとエールを送られました。



【ポスターセッション】

フォーラム終了後、本学で活動している学生が“私たちの樟蔭美”というテーマに沿ってポスターセッションを行いました。

- イキ×ラボ・チャレンジプロジェクト「キャンドルナイト」
- イキ×ラボ・チャレンジプロジェクト「グリムプロジェクト（読み聞かせ）」
- 生協委員（社会的課題班によるSDGsへの取り組み）
- ニュージーランドへの留学・G20通訳ボランティア・タイでの日本語教育実習
- 「ラグビーをテーマにしたドレス制作」の展示
- ラグビーワールドカップ2019ファンゾーン（天王寺区・てんしば）で東大阪市の都市魅力発信ブースの運営
- トピタ！留学ジャパンで留学体験（専門：特殊メイク）

本フォーラムに関して「学長だより」

(http://www.osaka-shoin.ac.jp/blog_president/)
に学長の思いが記されています。



INTERVIEW FORUM